

令和3年11月27日(土)

オンライン関西体育授業研究会

箕面市立とどろみの森学園 篠原崇

## フライングスタートリレー

～仲間の道を切り開け～

### 教材設定の意図

本校の運動会には各学年から選ばれ競う代表リレーが花形種目として毎年注目されている。練習風景を見ていると、さすがは代表児童であり、軽やかにお手本のような走り方で駆け抜けていく。しかしながら、バトンパスでは多くの子どもたちがうまく渡せずに困っている姿を見かけることが多かった。

これまで私自身が実践した体育の授業でも、次走者はテークオーバーゾーンの手前で前走者に正対して待ち、棒立ち状態でバトンを受け取る姿が目立った。そこで、スタートマークを教えタイミングを図るよう指導してきた。

指導要領に記載されている中学年でのリレーの例示(下記参照)を見ると、バトンの受け渡し技術よりもタイミングを理解・習得することが重要視されている。つまり、前走者と自分の走力を考えながら「いつ」出発するかを理解させるために、前走者と次走者が調整を繰り返し、スタートマークを見つけることが必要不可欠である。

しかし、スタートマークが理解できても、スピードが上がらず前走者との距離が詰まったり、追い付けずバトンパスができなったりすることがあった。それは、スタートマークが明確になっても、バトンを受ける場所が定まっていないことが関係しているのではないかと考えた。

そこで、本教材ではこれまでのバトンリレーとはちがひ、テークオーバーゾーンを極端に短くし、バトンパスを排除した。加えて、「フライングスタート」の要素を取り入れることで、スピードに乗ったタイミングのよい入れ替わりを体感することができるのではないかと考えた。

また、コロナ禍における運動制限により、緊急事態宣言中にはバトンパスができずリレーを授業で行うことが難しかった。上記に述べた意図に加え with コロナの観点も踏まえながら、バトンパスを行わずともリレーの魅力を実感することで、高学年のリレーへとつなげていきたい。

## リレーの系統性

	低学年	中学年	高学年
領域	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
種目	走の運動遊び	かけっこ・リレー	短距離走・リレー
技能	いろいろな方向に走ったり、低い障害物を乗り越えたりすること。	調子よく走ったり、バトンの受け渡しをすること。	一定の距離を全力で走り、滑らかなバトンパスをすること。
1人あたりの走距離	30m～40mのかけっこ	30m～50m	40m～60m
例示	○折り返しリレー遊び、低い障害物を用いてのリレー遊び  ・相手の手の平にタッチをしたりバトンの受け渡しをしたりして走ること。	○周回リレー  ・走りながらタイミングよくバトンの受け渡しをすること ・コーナーの内側に体を傾けて走ること。	○いろいろな距離でのリレー  ・テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受け渡しをすること。